

音源の比較試聴(47)
—リストのピアノ協奏曲第1番—

1. 始めに

前報(46)に引き続き、各種音源の再生経路に関する仮想アースとアースアキュライザーや OPT ISO BOX や LAN iPurifier Pro などを含む種々の対策の効果の確認のため、各種音源の比較試聴を実施します。

2. 音源の比較試聴の試聴方法と音源

アナログ関係の対策の経過は前報(27)でも延べたとおりで、配信や CD 再生の光アイソレーションなどの対策は fidata HFAS1-S10 の活用シリーズや OPT ISO BOX の導入シリーズや LAN iPurifier Pro で報告してきました。

今回、同じ曲のアナログ盤と STAGE+およびベルリンフィルディジタルコンサートからの配信を比較試聴します。

アナログ盤は下記を使用します。

ドイツグラモフォン MG 1039

フランツ・リスト ピアノ協奏曲第1番

ラザール・ベルマン (ピアノ)

カルロ・マリア・ジュリーニ指揮ウィーン交響楽団

配信は STAGE+とベルリンフィルディジタルコンサートホールから上記と同一の曲を選択します。

フランツ・リスト ピアノ協奏曲第1番

スティーヴン・ハフ (ピアノ)

アンドリュー・リットン指揮ベルゲン・フィルハーモニー管弦楽団

フランツ・リスト ピアノ協奏曲第1番

アリス・沙良・オット (ピアノ)

トーマス・ヘンゲルブロック指揮ミュンヘンフィルハーモニー管弦楽団

フランツ・リスト ピアノ協奏曲第1番

エフゲニー・キーシン (ピアノ)

マリス・ヤンソンス指揮ベルリンフィル

それぞれの音源は、下記の経路で聴いていきます。

アナログ盤

LINN LP-12→ZANDEN Model 12→Brooklyn DAC+→TruPhase(A)

STAGE+およびベルリンフィルデジタルコンサートホール

ルーター→スイッチングハブ→PC→Brooklyn DAC+→TruPhase(A)

3. 音源の比較試聴結果

アナログ盤は、レーベルに対応したイコライザー特性で聴いていきます。

アナログのベルマンとジュリーニ指揮ウィーンフィル盤は、響きは豊かで、抒情的なロマンチズムの風情を漂わせた演奏です。

STAGE+のハフとリットン指揮ベルゲン・フィルハーモニー管弦楽団の演奏は、リットンの演奏は初めて聴きますが、鋭角的な打鍵できらきらと輝くような絢爛なピアノリズムです。

STAGE+のアリス・沙良・オットとヘンゲルブロック指揮ミュンヘンフィルハーモニー管弦楽団の演奏は、タッチはやさしく、余韻が豊かに響くピアノリズムで、よく歌わせています。

ベルリンフィルデジタルコンサートのケーシンとヤンソンス指揮ベルリンフィルの演奏は、しばしばリファレンスとして試聴しており。ケーシンのピアノの左手の低音の沈みこみや、ヤンソンス指揮ベルリンフィルの低弦のホール内の回り込みがリアルです。

4. まとめ

アナログ再生と STAGE+からの配信を比較してみましたが、これまでの対策で、すべてにおいてレベルが向上しており、以前のような格差がなくなっており、それぞれの収録環境や演奏家のこの曲の解釈やピアノリズムが分かるようです。

以上